

厚木基地「日米親善春祭り」にて募集広報を実施



自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神忠雄3等海佐）は、4月20日（土）、海上自衛隊と在日米海軍が共同使用する厚木基地を一般開放して開催された「日米親善春祭り」において募集広報を実施しました。

当日は、夏のような暑さの中、日米の二十数機の航空機や消防車などが格納庫前にすらりと並び、在日米海軍関係者によるバンド演奏や陸上自衛隊高等工学校による和太鼓演奏、海上自衛隊下総航空基地によるミニP-3C/P-1パーフォーマンズなどのイベントも行われ、航空ファンや家族連れなど約5万5千人が来場しました。

厚木募集案内所は、広報ブースを設置して自衛隊の活動のパネル展示や広報官による自衛官の採用制度の説明などを実施し、神奈川地本の人気キャラクター「はまにゃん」も登場して多数の来場者と快く記念撮影や握手に応じるなど、ブースは大盛況となりました。

また、海上自衛隊第4航空群の支援を得て、募集対象者の新管制塔や広報資料館の見学も実施し、「航空管制の仕事を見学する貴重な経験となった」との声を聞くことができました。

厚木募集案内所は、当日、県内各地から集まって広報活動と自衛官募集に汗を流した広報官たちの奮闘を振り返り、「暑い（熱い）日ではありませんでしたが、多くの方に自衛隊のことを理解いただくことができ、有意義なイベントとなりました。今後自衛隊への理解と募集活動に情熱を持って取り組んでいきたい」としています。

「第60回北條五代祭り」にて広報活動を実施



自衛隊神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 折口二郎2尉）は、令和6年5月3日（金）、小田原市で開催された「第60回北條五代祭り」において広報活動を実施した。

北條五代祭りは、戦国時代に小田原を拠点として五代約百年にわたって関東を治めた戦国大名の北條氏を顕彰するもので、六十回目となる今年は、小田原城址公園銅門特設ステージにおいて、コロナ禍を経て5年ぶりとなる「出陣式」を行い、小田原ゆかりのゲストが扮した北條五代の歴代当主をはじめとする武将たちの勇壮な武者行列や、地元の吹奏楽隊、陸上自衛隊第1音楽隊（練馬駐屯地、東京都練馬区）など総勢千七百人が市内をパレードし、過去最高となる約三十万人が華やかな戦国絵巻を楽しんだ。

小田原地域事務所は、小田原市観光協会と連携して自衛隊広報ブースを出展し、自衛隊の活動や装備品の写真展示や迷彩服の試着体験などのイベントを実施した。特に、迷彩服を試着しての写真撮影が好評で、多くの人がブースに来場し、親子で試着体験をする方もいるなど大盛況であった。

小田原地域事務所は、「今後も地域の協力者の方々と継続的に信頼関係を構築し、地域の皆様と交流できる機会を大切にして、自衛隊を身近に感じていただけるよう精力的に活動していきたい」としている。